

## N17a オリオン座・一角獣座星形成領域における近赤外での変光観測

日下部 展彦 (東京学芸大学)、田村 元秀 (国立天文台)、奥田 治之、橋本 修、西原 英治 (ぐんま天文台)

本研究ではぐんま天文台 150cm 反射望遠鏡を用いた星形成領域の近赤外モニタリング観測の結果について報告する。近年、褐色矮星や系外惑星についての発展は目覚ましい。星形成領域における超低質量天体の近赤外の変光を検出することが目標である。

今回観測したサンプルは 2002 年 12 月より 2003 年 3 月の間、1 ヶ月ごとに行った。観測バンドは J,H,Ks で、7' x 7' の 1 視野でモニタリング観測を行った。観測対象はオリオントラペジウムクラスターと一角獣座の星形成領域 (NGC2264) で、10 ポジションのデザリングで積分時間は 12 月のデータは 15 分、以降は全て 10 分のデータをとった。1 次処理及び解析は現在全て IRAF 上で行った。

1 次処理の終わった月ごとの画像に対して、daofind で星の検出を行った。ネビュラの領域でのカウント値も考慮して星像検出の際の標準偏差は大きくした。オリオントラペジウムクラスター領域に検出された星数は約 400 個。その全てに対してアパーチャーフォトメトリを行った。ネビュラ内の星が多く、バックグラウンドが一定でないため、測光の際のスカイ幅は星の近傍で少なめにとった。12 月から 1 月、1 月から 2 月の変光から全星数のうち数十個が 0.4 等以上の変光を示すデータを得た。本講演では、これらの変光星の性質について議論する。